

科目	医療コミュニケーション学	担当	北野 達也	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

患者-医療従事者間のコミュニケーションは、診断、治療評価に必要な情報収集のスキルや、疾患に対する不安や悩みを軽減させる“癒し”などに成り得る。また、臨床現場における医療事故発生要因としてコミュニケーション・エラーが上位を占めており、Technical Skills(臨床技能・技術など)修得は勿論、Non-Technical Skills(コミュニケーション、チームワーク、リーダーシップなど)修得が重要視され、医療面接技法が医学部教育カリキュラムに導入されつつある。この講義では、コミュニケーションの重要性を理解し、臨床現場において患者及び医療従事者間のパートナー・シップの確立、さらに患者の治療結果の最大化を図るべく、新たなコミュニティ・デザイン構築の実践手法を修得する。

【履修注意】

携帯電話電源切又はマナーモード、飲食禁、講義中入室退室禁、10回以上出席を条件とする。

※「医療コミュニケーション学」は医療マネジメントコース推奨科目である。

【評価方法】

①期末テストによる評価:60%、②授業参加(積極的な授業参加、討論、発言、出席状況、レポートなど):40%

【試験について】

筆記試験を行う。

再試験対象者の条件:総合(期末テスト及び授業参加・レポート等)による評価が60点未満の学生

※但し、総合による評価が40点未満の学生は不合格とし、再試験を実施しない。

【予習・復習】

各回授業内容に応じ、授業前予習(専門用語、関連文献等の検索)、授業後の復習として、学習内容についてまとめ、国内外関連文献検索等によりさらに知識を深めること。※1コマ当たり90分を目安に予習・復習を行うこと。

【教科書】

購入教科書なし

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	Introduction	医療コミュニケーション学とは? 会話、伝達、情報共有、インプロヴィゼーション教育導入
2	コミュニケーションの基本	伝える力、質問スキル、傾聴スキル、承認スキル、Yes, and !、インプロヴィゼーション
3	医療コミュニケーション I	メッセージの種類、コンテキスト、コンテンツ、対話スタイル
4	医療コミュニケーション II	患者-医療従事者間コミュニケーション、パートナー・シップ確立、Informed Consent
5	医療コミュニケーション III	医療従事者間コミュニケーション、多職種連携、Team STTEPS
6	医療コミュニケーション IV	価値観・判断基準の明確化、解決課題の共有化、心理学、IG排除
7	医療コミュニケーション V	コミュニケーション阻害要因、ワーク・ショップ、Team Building、CRM 医療コミュニティ・デザイン構築、外来診療コミュニケーション
8	中間まとめ	1~7まとめ(レポート)
9	医療面接技法 I	医学教育技法(医療倫理・プロフェッショナルリズム・利他主義)強化
10	医療面接技法 II	コーチング・スキル(傾聴のスキル、承認のスキル、質問のスキル)の習得
11	医療面接技法 III	ファンリテーション・スキル(対話・発散、収束、合意形成)の習得
12	医療面接技法 IV	医療コミュニケーション教育、PBL、OSCE、アウトカム基盤型教育(OBE)
13	医療面接技法 V	医療コミュニティ・デザイン構築のためのワーク・ショップ:実習 I
14	医療面接技法 VI	患者-医療従事者ロールプレイ、模擬患者・標準模擬患者:実習 II
15	医療面接技法 VII	リスク・コミュニケーション、ADR、医療メディエーション:実習 III
16	期末試験	15コマの復習・確認・まとめ